

病害虫発生予報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（穂いもち）	並（局部多い）	—	野菜	白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	斑点米カメムシ類		—		白ねぎのネギハモグリバエ	並	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	少ない	—
	アカスジカスミカメ	並	—		ハスモンヨトウ	やや多い	—
	トゲシラホシカメムシ	並	—		ネキリムシ類	少ない	—
	クモヘリカメムシ	多い	—		タバコガ類	少ない	—
	ツマグロヨコバイ	やや多い	—	果樹	果樹のカメムシ類	多い	—
	ヒメトビウンカ	並	—		リンゴの褐斑病	多い	—
	セジロウンカ	多い	—		リンゴのハダニ類	やや多い	—
	トビイロウンカ	並	遅い		ニホンナシの黒星病	やや多い	—
コブノメイガ	やや多い	—	ニホンナシのナシヒメシンクイ		並	—	
大豆	紫斑病	並	—		ニホンナシのハダニ類	やや多い	—
	フタスジヒメハムシ	並	—		ニホンナシのハマキムシ類	やや多い	—
	アブラムシ類	少ない	—		ブドウのべと病	並	—
	ハスモンヨトウ	やや多い	—		カキ（三社）の炭疽病	少ない	—
	大豆カメムシ類	並	—		カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	少ない	—
	ハダニ類	やや多い	—	モモのせん孔細菌病	並	—	
野菜	白ねぎのさび病	やや多い	—	花き 球根	きくのハモグリバエ類	少ない	—
	白ねぎの軟腐病	並	—		ハスモンヨトウ	やや多い	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	少ない	—		タバコガ類	少ない	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量：並（**局部多い**）

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の発病株率は0.00%で、平年（0.02%）並であったが、一部、多発生ほ場が見られる。

(3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.02頭で平年（0.23頭）より少なく、確認地点率も2.2%で平年（6.0%）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入が多く見られる場合は追加の防除を行う。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

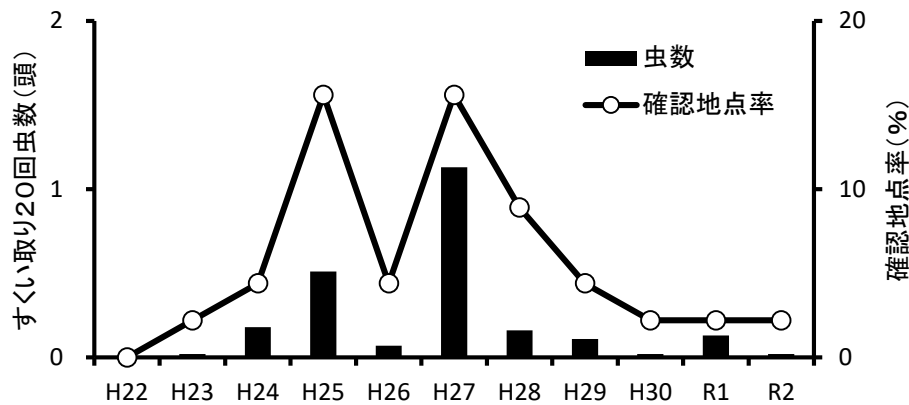


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.16頭で平年（0.20頭）並、確認地点率も11.1%で平年（6.9%）並であった。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

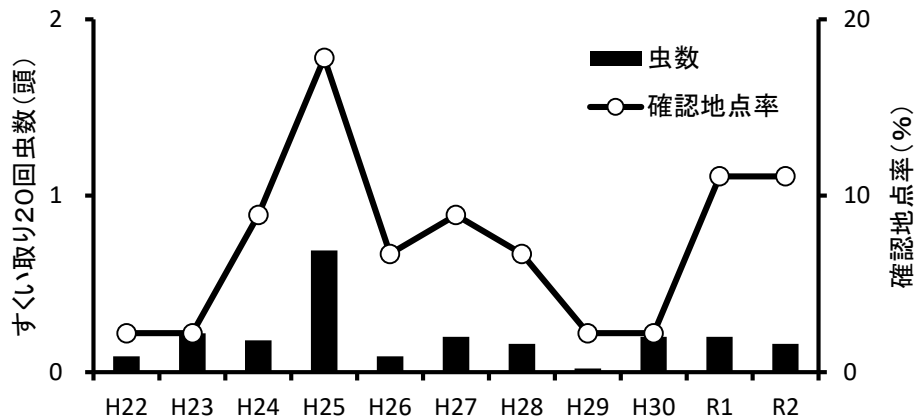


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.04頭で平年(0.07頭)並、確認地点率も4.4%で平年(4.9%)並であった。

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 41～42ページ参照

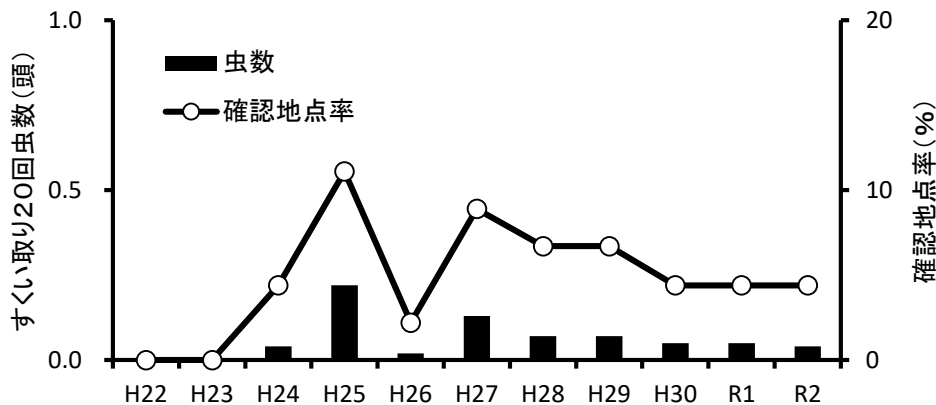


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

5 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.31頭で、平年(0.01頭)より多く、確認地点率も13.3%で平年(0.7%)より高かった。

(3) 防除対策

- ・ 発生の多い地域では品種を問わず、穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。

- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ、残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

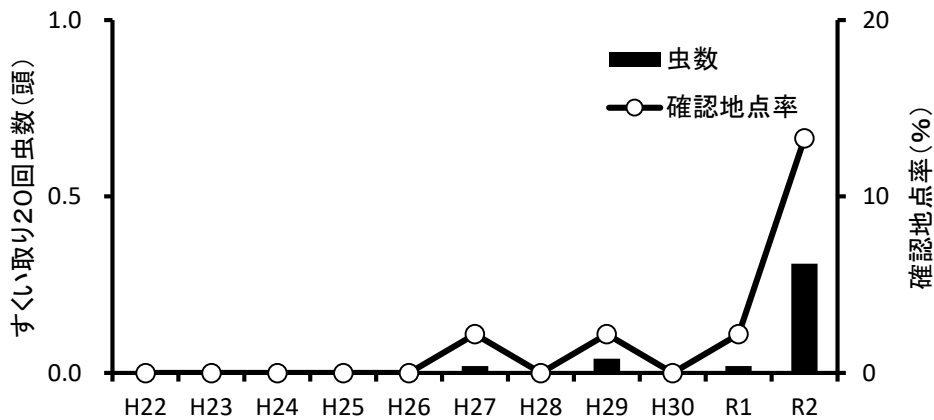


図4 クモヘリカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は23.5頭で平年(15.6頭)よりやや多く、確認地点率も37.8%で平年(28.5%)よりやや高かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 37ページ参照

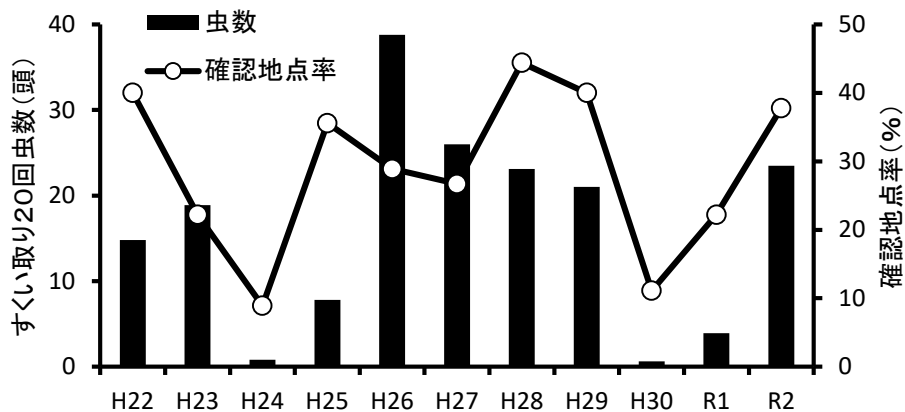


図5 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は51.7頭で、平年(91.1頭)より少なかったが、9月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

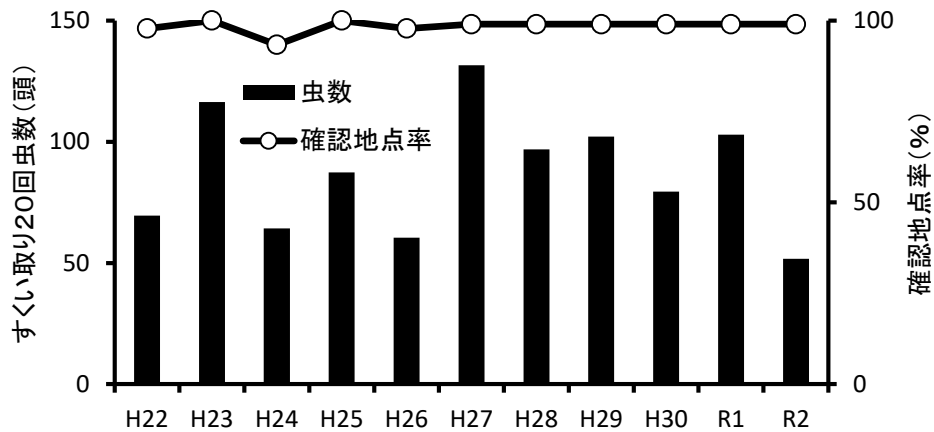


図6 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

8 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月20日調査の本田すくい取り虫数は本年12.8頭で、平年(4.5頭)より多かった。
- ・9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

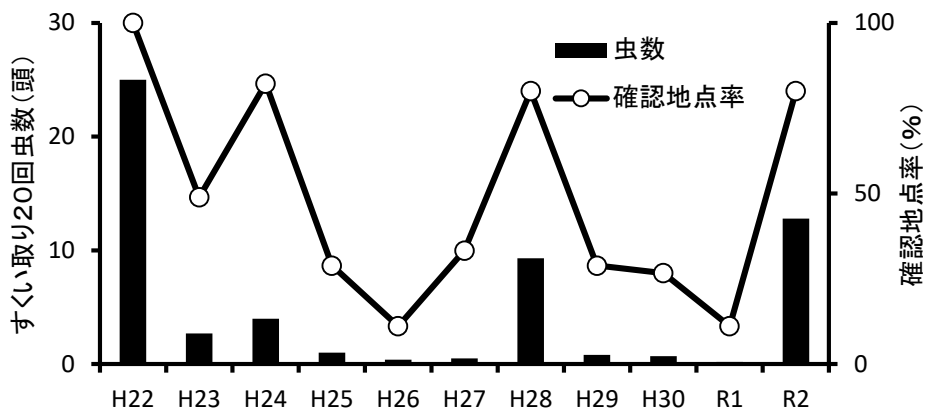


図7 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

9 トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量：並
発生時期：遅い

(2) 予報の根拠

【遅発要因】

- ・現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月6日)。

(3) 防除対策

・防除指針 38～39ページ参照

10 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月20日調査の確認地点率は15.6%で平年（4.0%）よりやや高かった。

- (3) 防除対策
- ・ 晩植田で多発することが多いので注意する。
 - ・ 防除指針 39ページ参照

II 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

- (3) 防除対策
- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
 - ・ 刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後はすみやかに乾燥する。
 - ・ 防除指針 52 ページ参照

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の払落虫数は0.61頭で、平年（0.61頭）並であった。

- (3) 防除対策
- ・ 払落調査を行ってほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
 - ・ 防除指針 55 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の寄生株率は0.4%で、平年（3.3%）より低かった。

- (3) 防除対策
- ・ 防除指針 54 ページ参照

4 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は236頭で、平年（189頭）よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

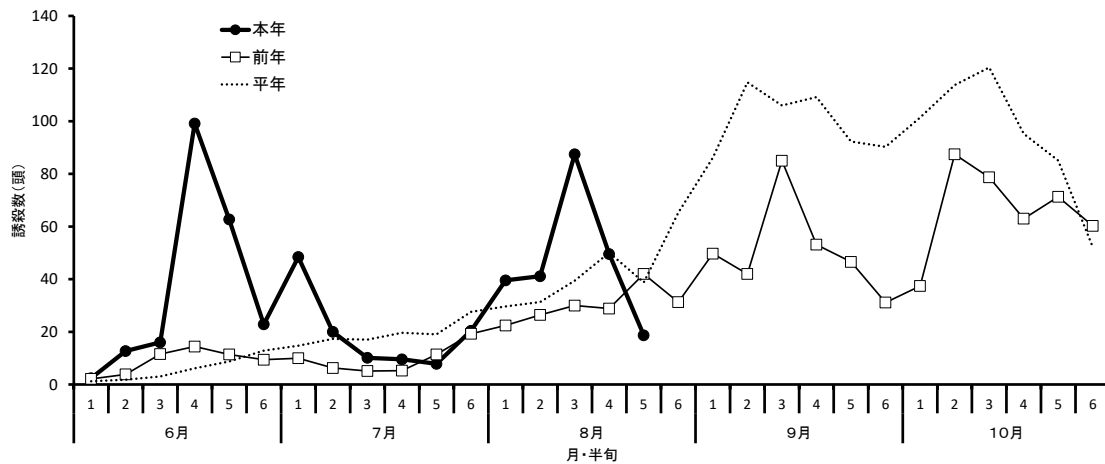


図8 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の1条間1.8m 払落虫数は0.09頭で、平年（0.06頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払落調査を行い、発生が見られたら防除する。
- ・防除指針 54 ページ参照

6 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月25日調査の被害株率は20.0%で、平年（17.9%）並であったが、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・防除指針 53 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・ 8月25日調査の発病株率は2.4%で、平年（0.3%）よりやや高かった。

(3) 防除対策

・ 防除指針 97 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。

・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。

・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。

・ 防除指針 98 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の発病株率は0.8%で平年（10.3%）より低かった。

(3) 防除対策

・ さび病の防除に努める。

・ 防除指針 98 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の被害株率は24.8%と平年（56.8%）より低かったが、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

・ 防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・ 8月25日調査の被害株率は25.6%と平年（20.3%）並であった。

- (3) 防除対策
・防除指針 99 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は65頭で、平年（119頭）より少なかった。

- (3) 防除対策
・防除指針 100 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は236頭で、平年（189頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策
・防除指針 66～135 ページのハスモンヨトウの項を参照

8 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが10頭で平年（34頭）より少なく、カブラヤガも34頭で平年（71頭）より少なかった。

- (3) 防除対策
・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
・防除指針 68～132 ページのネキリムシ類の項参照

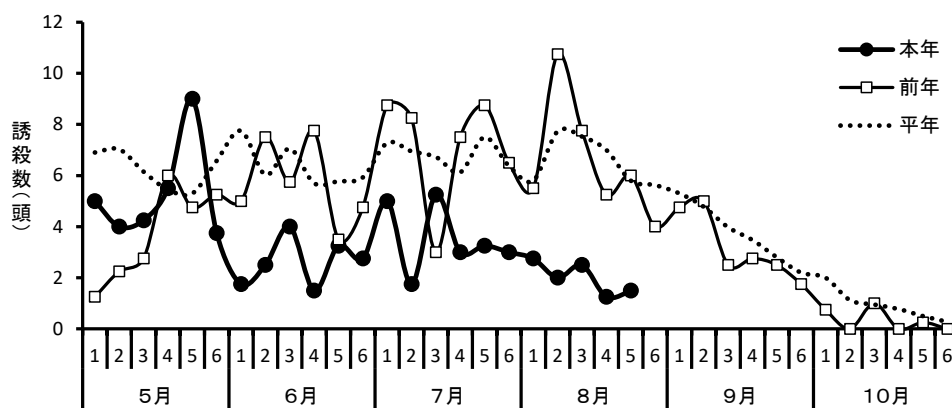


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

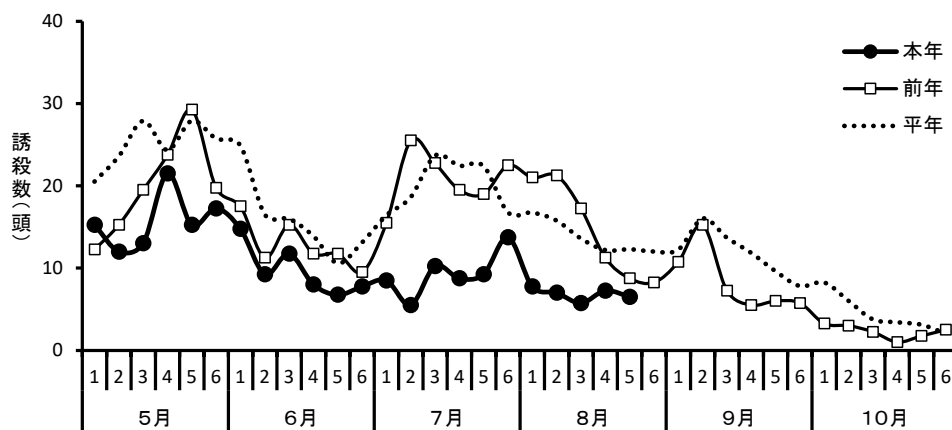


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

9 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが42頭で平年(67頭)より少なく、オオタバコガも34頭で平年(78頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 66～113ページの野菜のタバコガ類の項

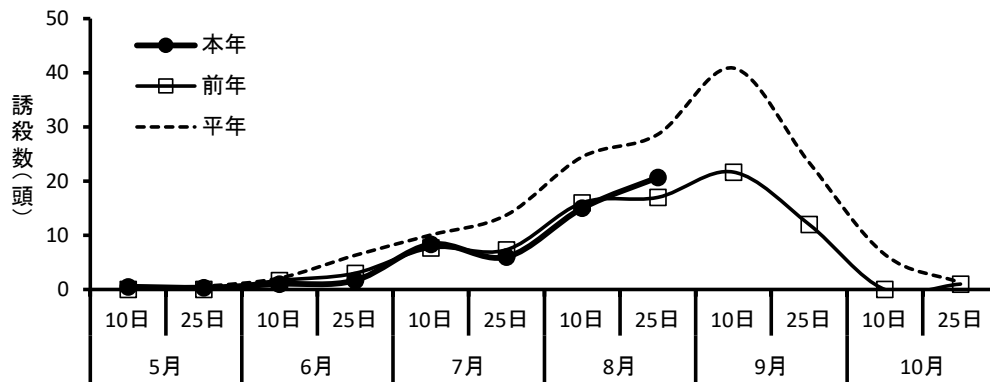


図 1 1 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

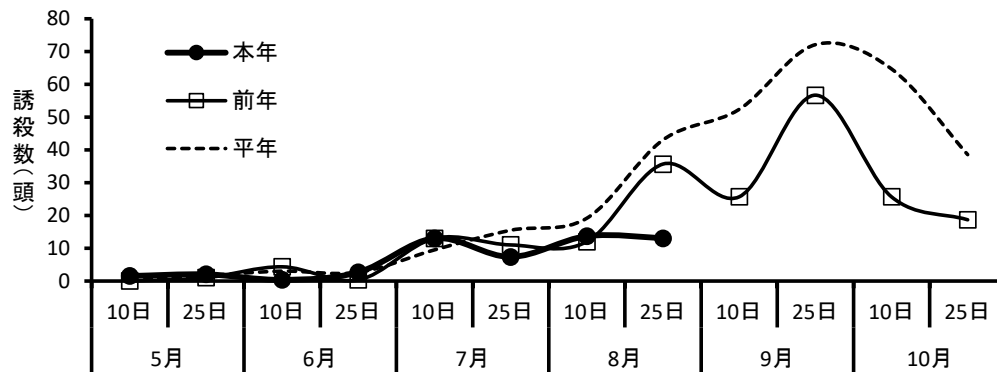


図 1 2 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
 (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は67頭で平年（3頭）より多かった。
- (3) 防除対策
- ・カメムシ類の発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
 - ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・防除指針 リンゴ 144、147 ページ、ニホンナシ 155、158 ページ、カキ 169 ページ参照

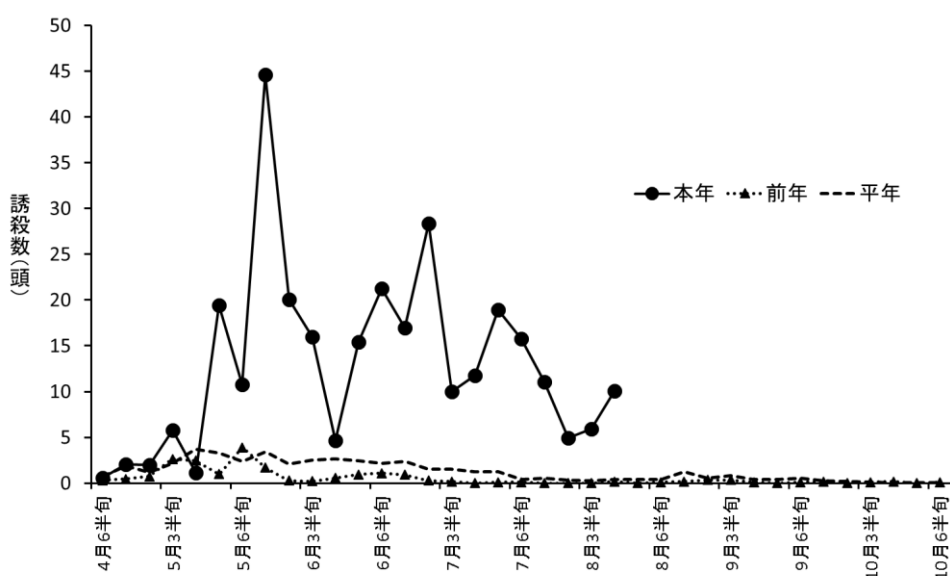


図1-3 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数推移

2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量が多い。

(3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上のヒコバエなど樹冠内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。
- ・罹病した新梢は見つけ次第切除し、園外に持ち出して処分する。
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合は、QoI剤を散布する。
- ・降雨で防除間隔が開きすぎないように、防除を適期に実施する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 140～142、146～147ページ参照

3 リンゴのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は平年よりやや多く、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上のヒコバエなど樹冠内部の混み合っている新梢を整理し、薬剤到達性を向上させる。
- ・薬剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、防除を

適期に実施する。

- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 145ページ参照

4 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・県内主要産地における現在の発生量はやや多い。

- (3) 防除対策

- ・罹病した果実や葉は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い場合は、幸水の収穫後にオーソサイド水和剤80（1,000倍）（3日前まで）を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 151～154、157ページ参照

5 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は15頭で平年（28頭）よりやや少なかったが、早生品種収穫時のナシヒメシンクイによる被害果は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・昨年発生の多かった園地や被害果の発生が見られる園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍）を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 151、154～155、158ページ参照

6 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量は平年並であるが、9月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には新梢の管理を行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・薬剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。

- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、防除を適期に実施する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 156、158ページ参照

7 ニホンナシのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は6頭で平年（1頭）よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・被害葉や被害果の発生が見られる園地では、IGR剤を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針 154、158ページ参照

8 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・罹病部は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・発生が見られる場合は、ICボルドー48Qまたはコサイド3000（クレフノン100倍加用）を散布する。
- ・防除指針 161、163ページ参照

9 カキ（三社）の炭疽病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・罹病した枝や果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して処分する。
- ・台風等風雨後はQoI剤またはナリアWDGを散布する。
- ・防除指針 166～168ページ参照

10 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月5半旬～8月4半旬の誘殺数は16頭で平年（284頭）より少なかった。

- (3) 防除対策
 - ・防除指針 166、169ページ参照

11 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・これまでの発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策
 - ・防除効果を高めるため、防除前に秋季せん定を実施する。
 - ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にかけてICボルドー412（30倍）を2回散布する。
 - ・台風等強風が予想される場合は、事前に防除を実施する。
 - ・ボルドー液の予防効果の持続期間は15日間程度であるので、散布間隔が開きすぎないように注意する。
 - ・防除指針 171、174ページ参照

V 花き・球根

1 きくのはもグリバエ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月25日調査の被害株率は0%と平年（0%）並に低かった。

- (3) 防除対策
 - ・防除指針 196～197ページ参照

2 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は236頭で、平年（189頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策
 - ・防除指針 198～206ページのハスモンヨトウの項を参照

3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが42頭で平年(67頭)より少なく、オオタバコガも34頭で平年(78頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 198～206 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報

(9月から11月までの天候見通し)

令和2年8月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率60%です。

10月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

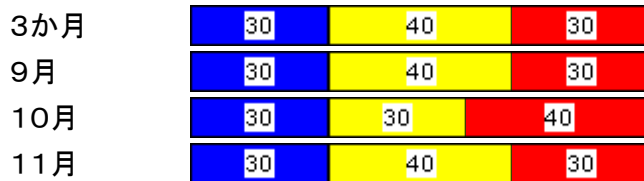
【気温】

[北陸地方]



【降水量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)